



さわやか



「さわやかあいさつ」が塩川小学校の自慢 ～学校アンケートから～

6月下旬に実施した「学校アンケート」の結果について、今回は、子ども達の自由記述をまとめ、分析した結果をから、わかったことをお知らせします。

自由記述は、いわゆる「開かれた質問（答え方が決まっていない）」です。その子の受け取り方で、広く質問を捉えて自由に回答できる聞き方です。従って、個々の考えを素直に反映するものになっています。

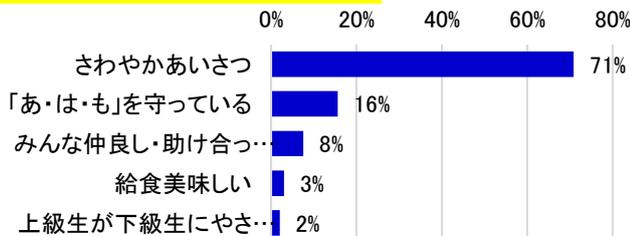
子ども達は、本校をどのように捉えているのでしょうか？ また、本校を自慢できるものは何なのでしょう？



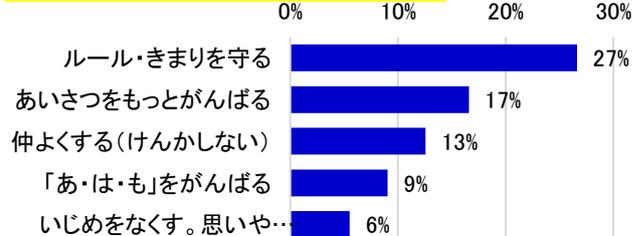
校外で「さわやかあいさつ」

自慢は「あいさつ」 もっとよくするには「規律」が必要！

塩川小学校の自慢は何ですか



塩川小学校をもっとよくするには？



「さわやかあいさつ」を自慢と答える児童が圧倒的で、全ての学年で7割を占めました。

「さわやか」の意味には、「名前を付けてあいさつ～」「地域の人、誰にでも～」「笑顔で～」「お辞儀をして～」等が入っていました。

もっとよくする方法は、「ルールや決まりを守ること」と答えました。規律ある集団生活の必要性を子ども達も考えているようです。・廊下、階段をはしらない。・スリッパそろえる。・やるべきことやる。・交通ルールを守る等が入っていました。少数意見でしたが、「礼儀正しくする」「学校をきれいにする」がありました。

1. 2年生の意見から

1年生の意見に、「塩川小のみんなが、ちゃんとやっている」「6年生（班長）がやさしい・おもしろい」がありました。「みんな」「6年生」は、本校のキーワードです。

2年生は、「あいさつがとていい」と、半分以上の52%の児童が答えました。

1, 2年生らしい意見として、「図書室におもしろい本がある」「先生が詳しく勉強を教えてくれる」がありました。低学年の子ども達にも、塩川小のよさや校風がしっかり伝わっていることに嬉しくなります。

塩川小教育活動の応援ボランティア



子どもを育てる・伸ばす教育活動に高めるには、現職教育や互見授業など組織的な取組によるものと、教材研究や自主的な研修など個人的な取組によるものがあります。その中でも教材研究は、「教材研究に勝る手立てなし」と言われるくらいに、よい授業づくりには欠かせないものです。

その時間を生み出すため、マンパワーとしての「マル付けボランティア」を増やしていきたいと考えています。

その他に必要な〇〇ボランティアがあれば、学年で話し合い、別紙に記入して教頭に提出してください。

マル付けボランティアのつばやき・・・「宿題は、担任が見るものだ。と、思っていた。」M先生

「ノートを見ることでいっぱいだった。なんで宿題させてんだらうって、思っていた。」O先生